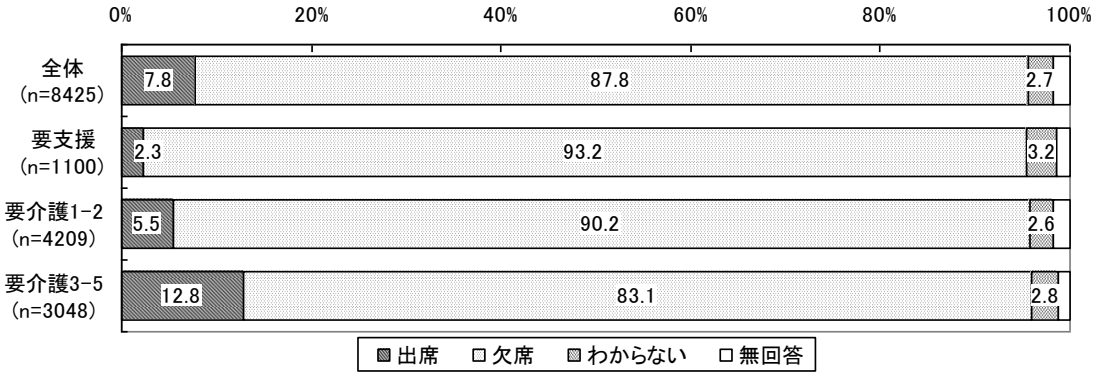
9. サービス担当者会議への出席状況

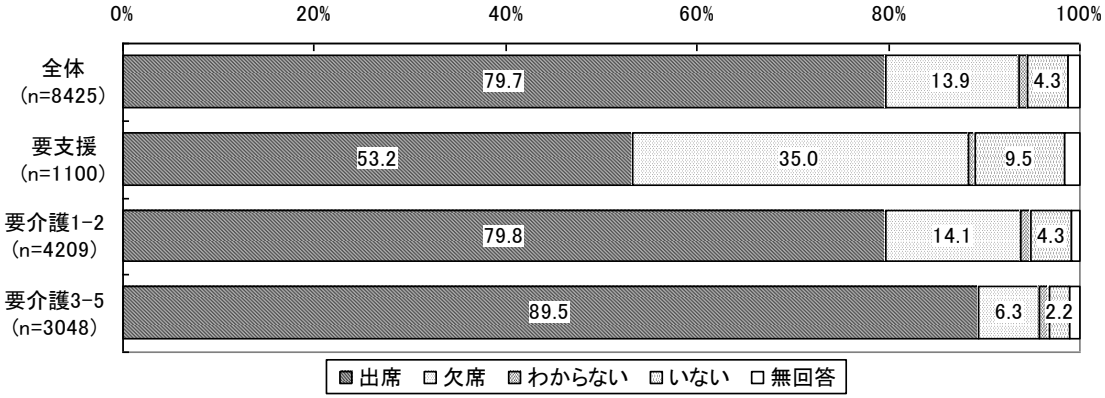
❍認定更新時のサービス担当者会議に医師が出席しているケースは、全体の7.8%
❍認定更新時のサービス担当者会議に家族が出席しているケースは全体の79.7%で、要介護3以上では89.5%

- 認定更新時のサービス担当者会議に医師が出席しているケースは全体の7.8%で、要介護度が高くなると出席する割合が高くなる。
- 認定更新時のサービス担当者会議に家族が出席しているケースは全体の79.7%で、要介護度が高くなると出席する割合が高い。要介護3以上では89.5%が出席している。

図表 要介護度3段階別 サービス担当者会議への医師の出席



図表 要介護度3段階別 サービス担当者会議への家族の出席



10.当ケースの難易度・自己評価

- 介護支援専門員自身が「困難ケース」と受け止めているのは全体の14.5%
- 家族等介護者がいない場合に、困難ケースであると感じる割合が大きい傾向

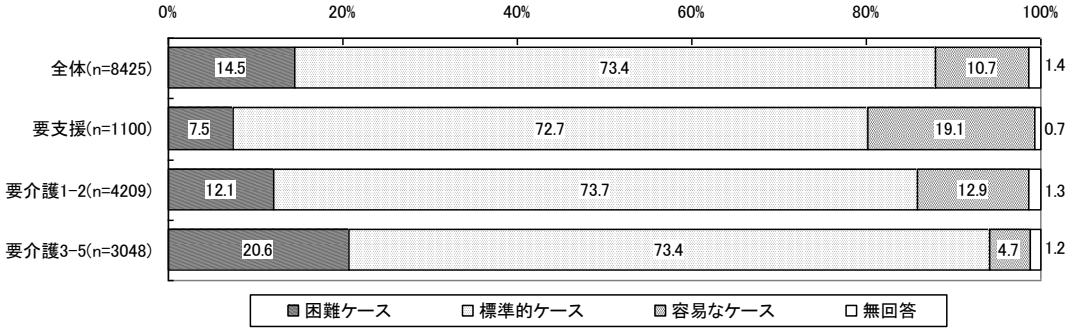
【難易度】

- 介護支援専門員が「困難」と考えるケースは全体の14.5%であり、要介護度が高いほど困難ケースの割合は高い。
- 要介護3以上では2割以上のケースが困難ケースであると介護支援専門員は受け止めている
- 家族などのインフォーマルな介護者がいない場合に、困難ケースであると感じる割合が高い。

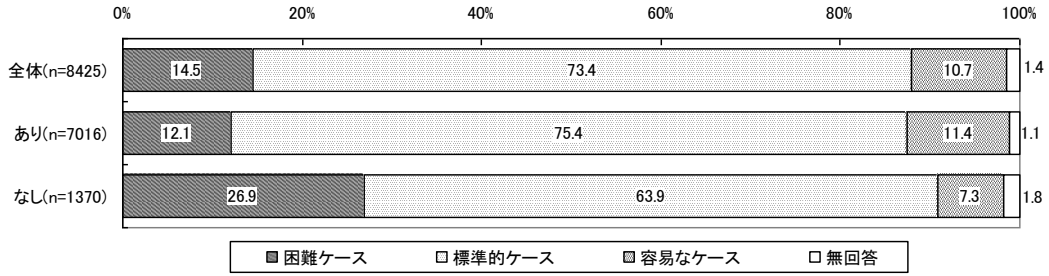
【自己評価】

- 当ケースのケアマネジメントについて「非常に順調」「ほぼ順調」(以下、左記を合算して「順調」と表記)であると感じている割合は要支援において高く、要介護度が上がるにつれて、「非常に難航」「やや難航」(以下、左記を合算して「難航」と表記)であると介護支援専門員が感じている割合が高い。

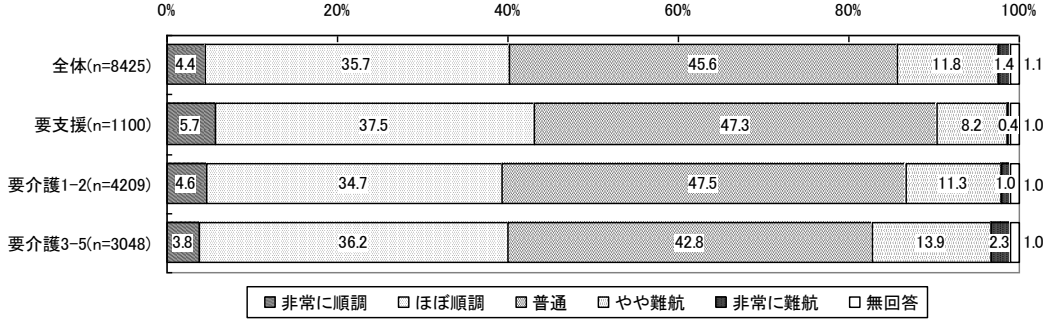
図表　要介護度3段階別 当ケースの難易度



図表　家族等介護者の有無別 当ケースの難易度



図表　要介護度3段階別 当ケースのケアマネジメントについての自己評価

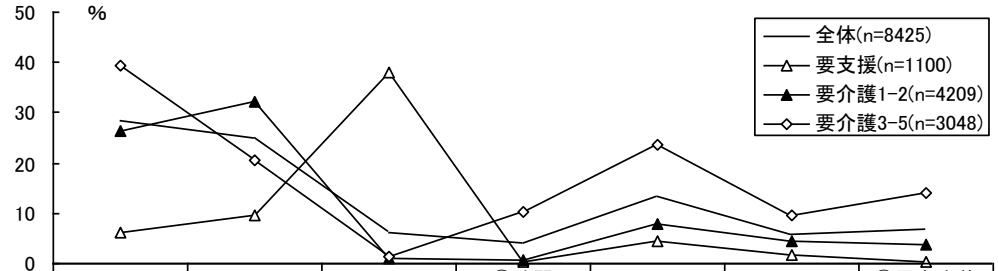


11. サービス種別サービス利用実績

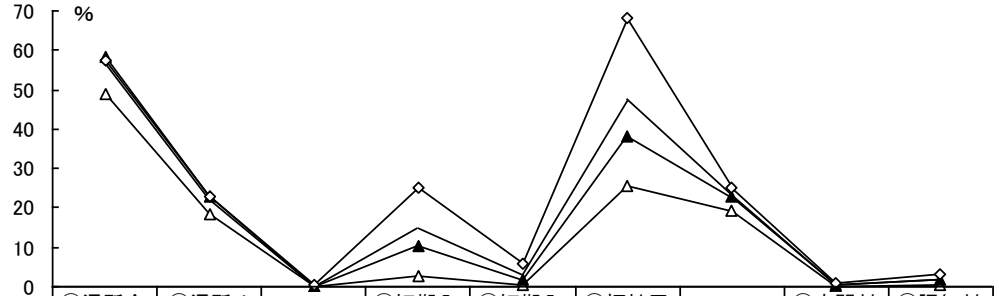
- サービス種別・要介護度別のサービス利用者の割合は概ね介護給付費実態調査と同じ傾向
- 全体の中で最も利用の多かったサービスは通所介護(予防通所介護も含む)であり、全体の56.7%が利用

- サービス種別・要介護度別のサービス利用者の割合は概ね介護給付費実態調査と同じ傾向であった。(グラフ掲載省略)
- 全体の中で最も利用の多かったサービスは通所介護(予防通所介護も含む)であり、56.7%の人が利用していた。次いで福祉用具貸与・販売(47.4%)、訪問介護[身体](28.3%)の順である。
- ショートステイや訪問看護、福祉用具は要介護度が高くなると利用する人の割合が高くなるが、通所介護は要介護度に関わらず多くの人が利用している。

図表　要介護度3段階別 サービス利用実績



	①訪問介護[身体]	②訪問介護[生活]	③予防訪問介護	④訪問入浴介護※予防含む	⑤訪問看護※予防含む	⑥訪問ﾘﾊﾋﾞﾘ※予防含む	⑦居宅療養管理指導※予防含む
全体(n=8425)	28.3	24.9	6.0	4.2	13.2	5.9	7.0
要支援(n=1100)	6.3	9.5	38.1	0.5	4.3	1.8	0.4
要介護1-2(n=4209)	26.2	32.2	1.1	0.7	7.9	4.3	3.7
要介護3-5(n=3048)	39.4	20.6	1.3	10.3	23.8	9.6	14.0



	⑧通所介護※予防含	⑨通所リハビリ※予防含	⑩療養通所介護	⑪短期入所生活介護	⑫短期入所療養介護	⑬福祉用具貸与・販売	⑭住宅改修	⑮夜間対応型訪問介護	⑯認知対応型通所介護
全体(n=8425)	56.7	22.2	0.2	14.6	3.2	47.4	23.3	0.5	1.9
要支援(n=1100)	49.0	18.5	0.1	2.5	0.5	25.8	19.5	0.2	0.3
要介護1-2(n=4209)	58.5	22.8	0.2	10.1	1.9	38.2	22.9	0.3	1.6
要介護3-5(n=3048)	57.3	22.7	0.3	25.0	6.0	68.1	25.1	0.9	3.0

11. サービス種別サービス利用実績
(1) 訪問介護

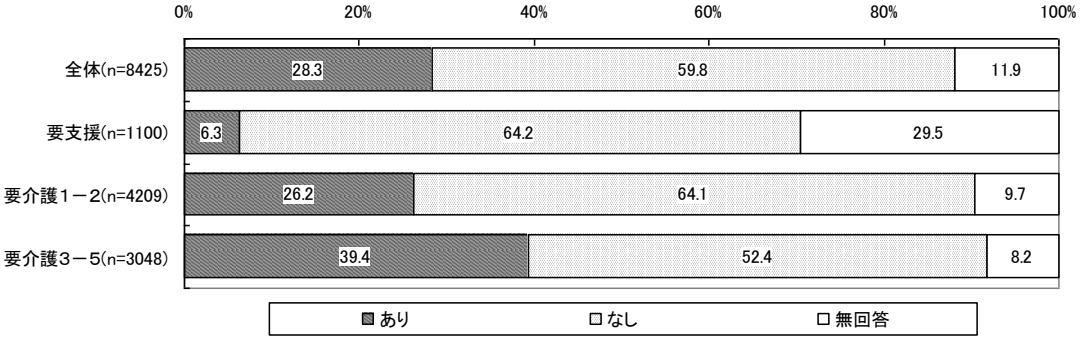
- 訪問介護([身体]あるいは[生活]のいずれか)を利用している人は、要介護1以上の約4割
- ひとり暮らしの場合、訪問介護[生活]を利用している割合が59.0%であり、同居者ありと比較して非常に大きい

【訪問介護[身体]】
- 訪問介護[身体]を利用している人は、全体の28.3%である。
- 要介護度が高くなるほど利用している人の割合は高くなり、要介護3以上では約4割である。

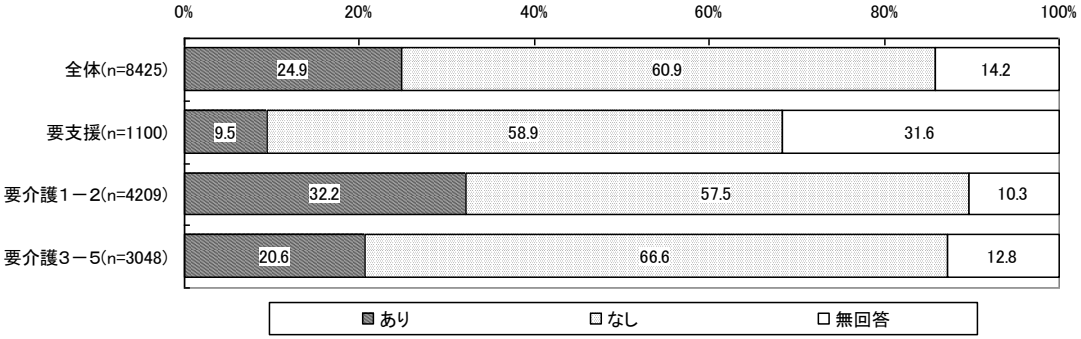
【訪問介護[生活]】
- 訪問介護[生活]を利用している人は、全体の24.9%である。
- 要介護1-2で利用している割合が最も高く3割を超える。
- 特にひとり暮らしの場合は訪問介護[生活]を利用している割合が6割近くに上る。

【訪問介護[身体]と訪問介護[生活]の組み合わせ】
- 訪問介護[身体]と訪問介護[生活]いずれか1つでも利用している人は要介護1以上の4割弱である。
- 訪問介護[身体]と訪問介護[生活]の両方を利用している人は全体の約17%である。

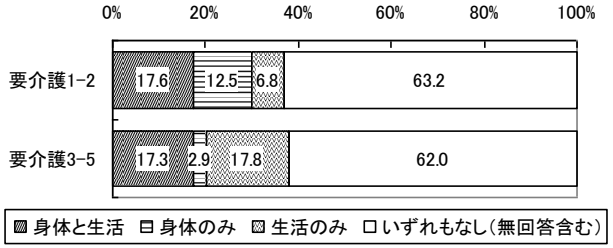
図表　要介護度3段階別　訪問介護[身体]サービス利用実績



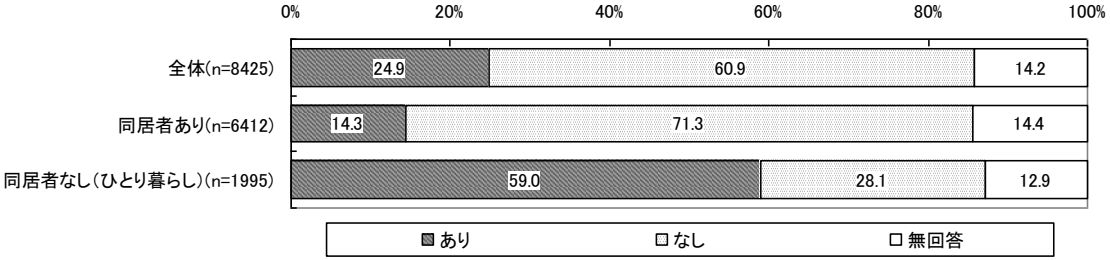
図表　要介護度3段階別　訪問介護[生活]サービス利用実績



図表　要介護度別 訪問介護[身体]・[生活]利用実績(組み合わせて集計)



図表　独居・同居別 訪問介護[生活]月間サービス利用実績



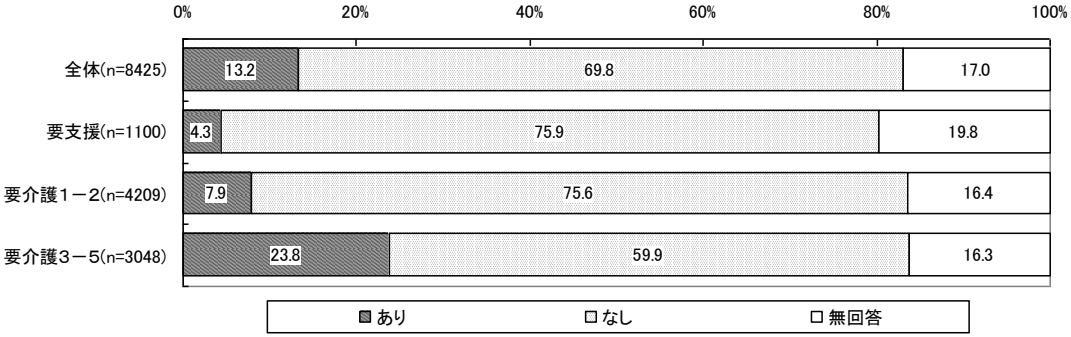
11. サービス種別サービス利用実績
(2) 訪問看護（要介護度・疾患別）

- 訪問看護(予防含む)の利用は全体の13.2%であり、要介護度が高くなるほど増える。要介護3以上では23.8%
- 原因疾患別に見ると、呼吸器の病気、がんで利用が多く、利用している割合が2割を超える

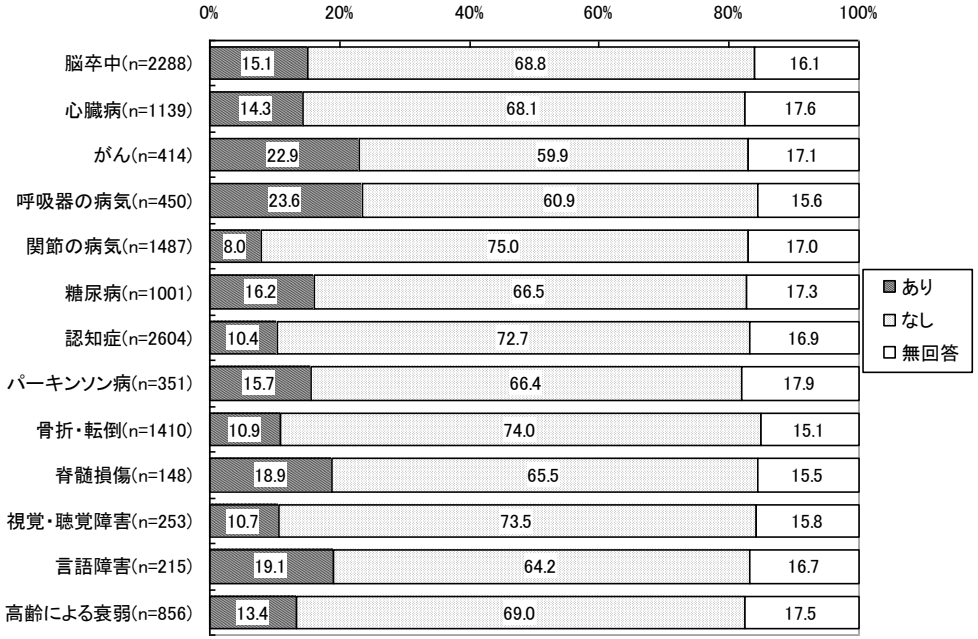
- 訪問看護(予防含む)を利用している人は、全体の13.2%、要介護3以上の23.8%である。
- 原因疾患別に見ると、
  - 呼吸器の病気
  - がん
  - 言語障害
  - 脊髄損傷

などのケースで利用している割合が高い。

図表　要介護度3段階別　訪問看護サービス利用実績



図表　主たる原因疾患別 訪問看護サービス利用実績

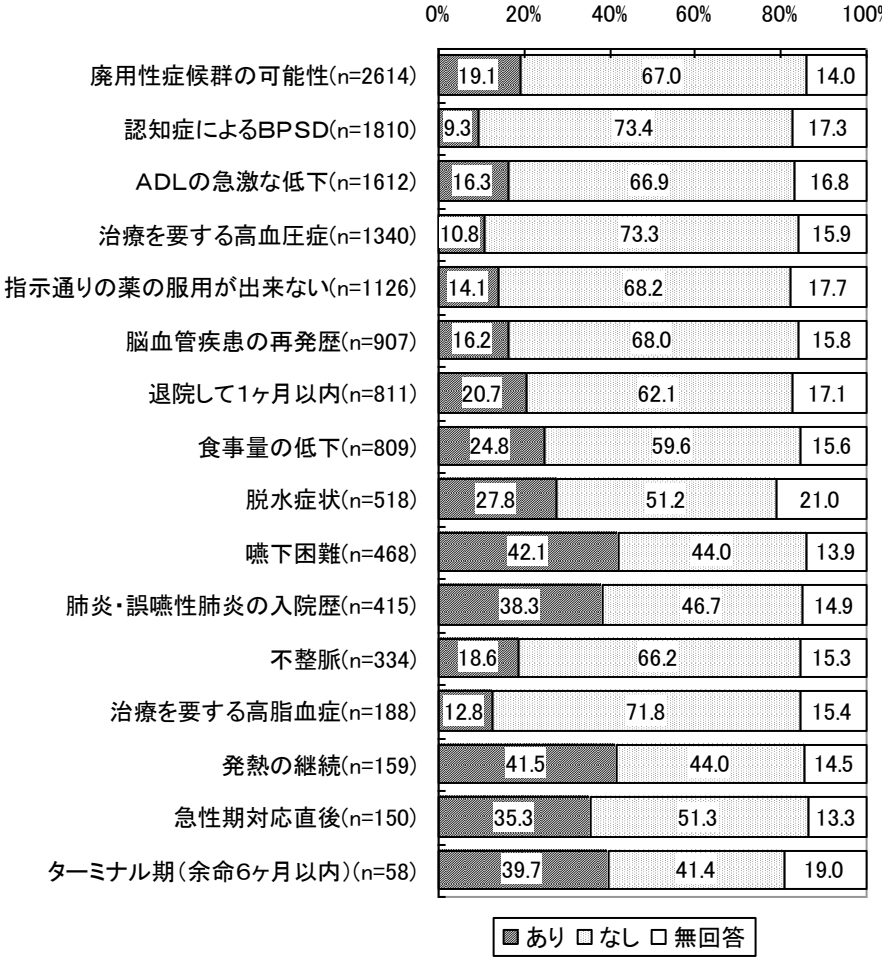


11. サービス種別サービス利用実績

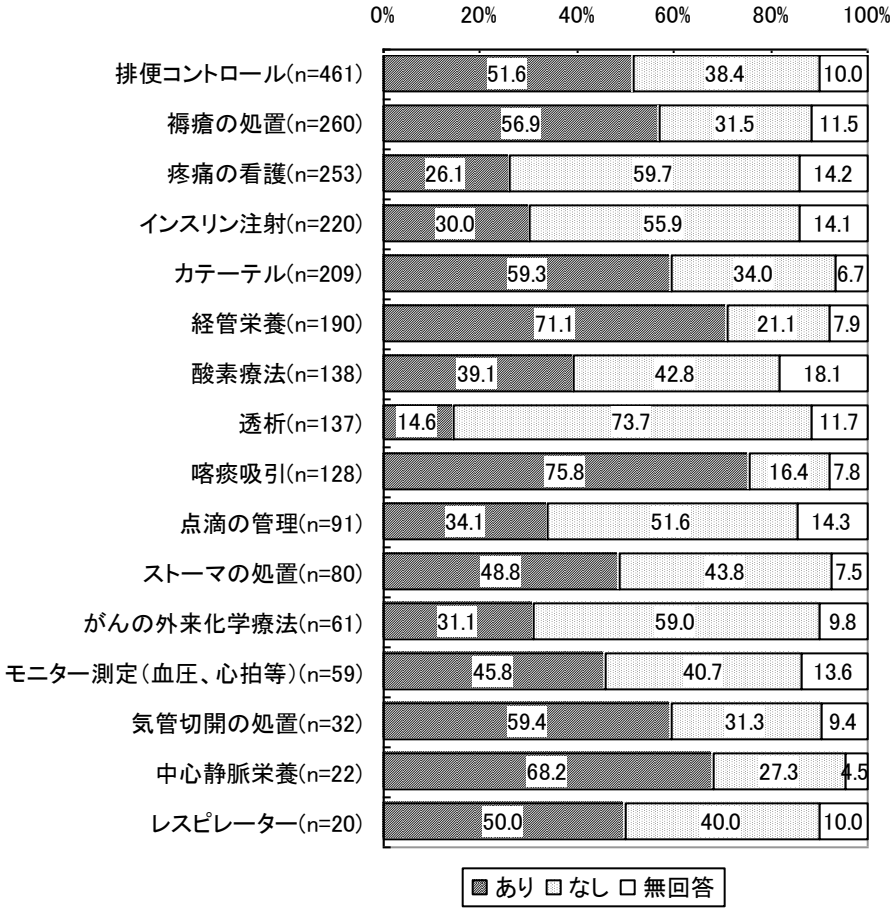
(2) 訪問看護（心身の状態・医療的ケア別）

- 心身の状態別に見ると、嚥下困難なケースの42.1%、発熱の継続ケースの41.5%、ターミナル期の39.7%で介護保険の訪問看護を利用
- 喀痰吸引が必要とされたケースの75.8%、経管栄養が必要とされたケースの71.1%、中心静脈栄養が必要とされたケースの68.2%で、介護保険の訪問看護を利用

図表　心身の状態別　訪問看護の利用実績（nが多い順に掲載）



図表　必要とされた医療的ケア別　訪問看護の利用実績（nが多い順に掲載）



(3) 通所介護

- 通所介護(予防含む)を利用している人は、全体の56.7%
- 通所介護の目的は、「社会参加」が最も高く、次いで「入浴」、「機能向上」

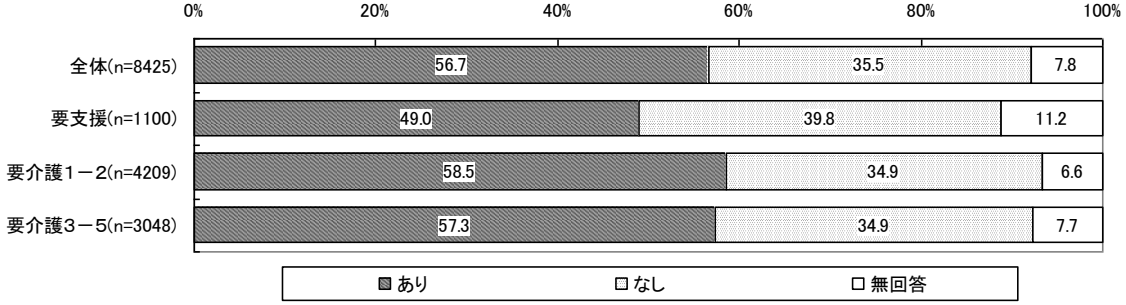
【利用状況】

- 通所介護(予防含む)を利用している人は、全体の56.7%である。
- 要支援では約5割、要介護1以上では6割弱である。
- 認知症の程度がⅡ～Ⅲの利用率が最も高い。

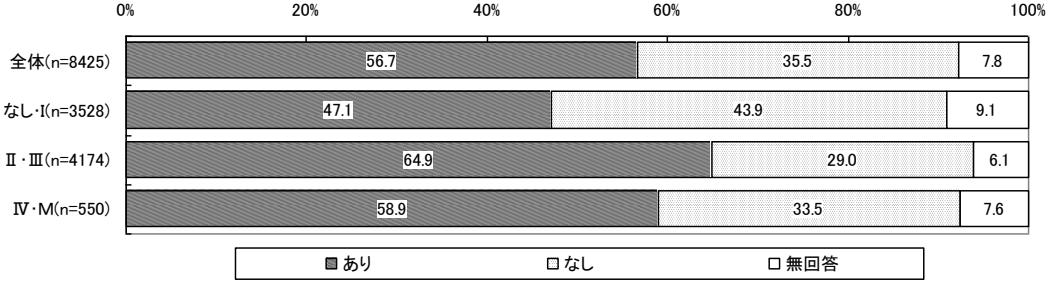
【利用目的】

- 通所介護の目的は、全体としては「社会参加」が最も高く84.6%であり、次いで「入浴」、「機能向上」の順である。
- 要介護度別に見ると、要介護度が高くなるほど、入浴や介護負担の軽減を目的とした利用の割合が増える。

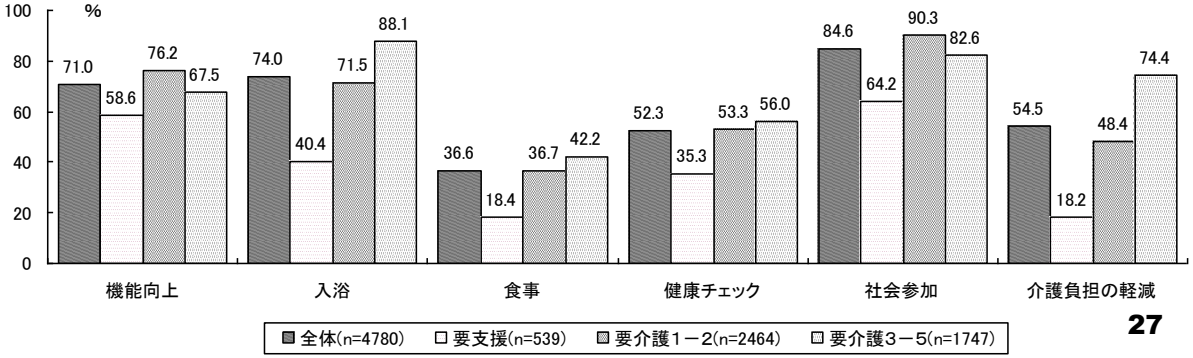
図表　要介護度3段階別　通所介護 サービス利用の有無



図表　認知症の程度3段階別　通所介護 サービス利用の有無

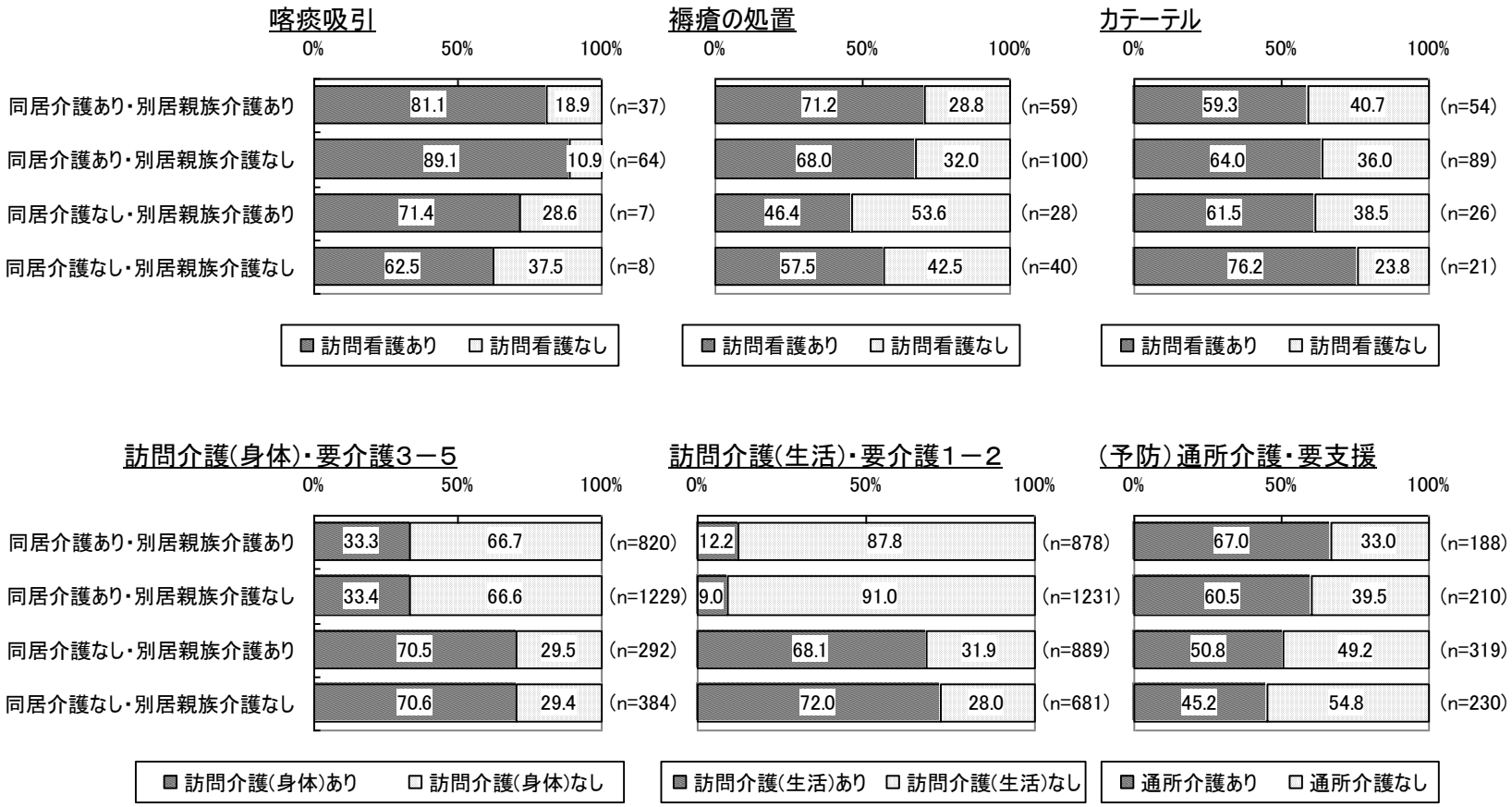


図表　要介護度3段階別　通所介護の目的



11. サービス種別サービス利用実績

(4) 家族等介護者の状況によるサービス利用実績の差異

- 医療ニーズがある場合に、家族等介護者がいるからといって必ずしも訪問看護の利用が減るわけではない
- 要介護3-5の訪問介護(身体)や要介護1-2の訪問介護(生活)は、同居介護者がいる場合に利用率が下がる傾向
- 要支援の通所介護は、家族等介護者がいる場合に利用率が高く、いない場合に利用率が下がる傾向

図表　家族等介護者の有無別　医療ニーズや要介護度別　サービスの利用　（家族等介護者の状況によってサービス利用実績に比較的違いが見られたものを掲載）